

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/07/01

金融政策変更の可能性を模索

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日米経済環境の「変化」探し 予想レンジ: 100.500 ~ 103.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	上値余地あるが米ドルの動きに注意 予想レンジ: 93.500~97.000円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



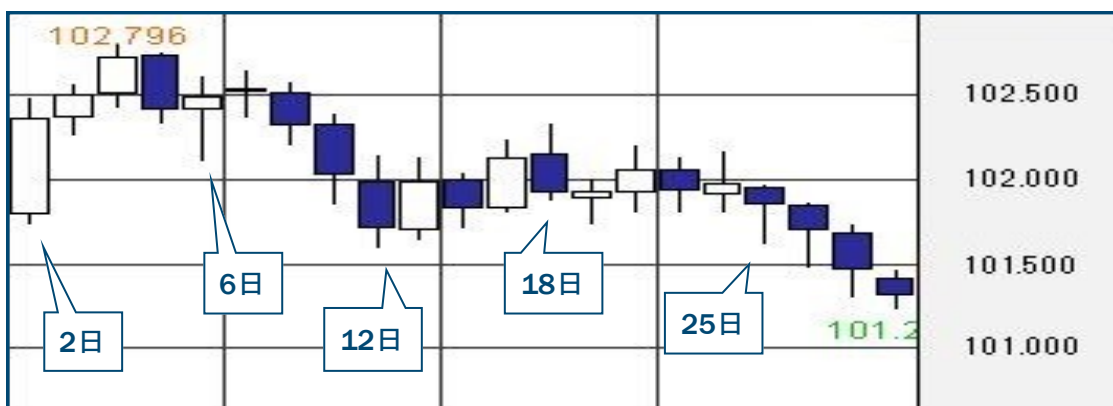
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ドル/円 6月の推移

6月のドル/円相場は101.239～102.796円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の下落(ドル安・円高)となった。

月初は第一生命による米生保プロテクティブの買収に関する報道を受けて円安が進行。株高などもあって値を伸ばすも、102.796円までで頭を押さえられてしまった。米5月雇用統計は早期利上げ観測に繋がらず、その結果、翌週以降のドル/円はジリジリと軟化。さらに、イラクで過激派武装組織が同国北部の都市を次々と制圧し、オバマ米大統領が軍事攻撃の可能性を示唆した事からリスク回避ムードが広がった点もドル/円の重石となった。中旬に入ると102.00円を挟んでもみ合いとなったが、下旬に米長期金利が低下し始めるとジリジリと下落。月末・期末を睨んでの本邦輸出企業によるドル売り・円買いなども重石となり、101.239円まで下落した。なお、24日に日本の「骨太の方針と改定成長戦略」が閣議決定されたが、「来年度から法人実効税率を20%台に引き下げ開始」とするなど新味に通しい内容で、目新しい発表が無かった事から、反応は限られた。



四本値	
OPEN	101.799
HIGH	102.796
LOW	101.239
CLOSE	101.321

2日	前日の「第一生命が5000億円で米生保買収で最終交渉」との報道や、日経平均の上げ幅拡大を受け、ドル/円は上昇。NY市場でも米長期金利上昇が追い風となり、上値を伸ばした。
6日	米5月雇用統計は、非農業部門雇用者数が21.7万人増、失業率は6.3%とほぼ予想(21.5万人増、6.4%)通りの結果となった。これを受け、ドル/円は乱高下したが、この雇用統計結果を受けてNYダウ平均が史上最高値を更新すると、102.608円まで急速に買い戻された。
12日	米5月小売売上が前月比+0.3%(市場予想:+0.6%)、米週次新規失業保険申請件数が31.7万件(同:31.0万件)と双方が市場予想を下回った事を受け、ドル売りが強まった。さらに、イラク北部の都市が過激派武装組織に相次いで制圧された事を受けて、オバマ米大統領が「イラクでの軍事攻撃の可能性は排除しない」と述べると、リスク回避ムードが強まり、ドル/円はストップを絡めて101.605円まで急落した。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)は市場予想通り金融政策を据え置いた。同時発表の経済・金利見通しにおいては、2015年末の金利の中央値が前回の1.00%から1.125%へ、2016年末が2.25%から2.50%へ上方修正された。また、失業率見通しは2014年末が前回の6.1-6.3%から6.0-6.1%へ、2015年末は5.6-5.9%から5.4-5.7%へ下方修正されるなど、強気な見方となった。しかし、一方で2014年の国内総生産(GDP)成長率見通しについては前回の2.8-3.0%から2.1-2.3%へ下方修正された(2015年見通しは3.0-3.2%へ据え置き)。これを受けて、発表後のドル/円は下落後に急反発して102.324円の高値を付けるなど、荒い値動きとなった。その後、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は定例記者会見で「最近の消費者物価指数データはやや高めだった」「失業率はFOMCが予想していたよりも早く低下した」などと発言したが、利上げの時期については「量的緩和終了から利上げ開始までの期間は決まっていない」とするに留めた。これらが市場が事前に期待したほどタカ派よりではない、と看做され、米長期金利が低下すると、ドル/円は101.882円まで値を下げた。
25日	米5月耐久財受注が前月比-1.0%と市場予想(±0.0%)を大きく下回った上、米第1四半期国内総生産(GDP)・確報値が前期比年率-2.9%と、改定値の-1.0%から市場予想(-1.8%)よりも大幅に下方修正された事から、ドル/円は101.627円まで失速。ただ、NYダウ平均が堅調に推移する中で米長期金利が低下幅を縮小すると、下げ幅を圧縮した。

USD/JPY

米2年債利回

OPEN	0.3750%
HIGH	0.4961%
LOW	0.3710%
CLOSE	0.4567%

米10年債利回

OPEN	2.4794%
HIGH	2.6566%
LOW	2.4750%
CLOSE	2.5304%

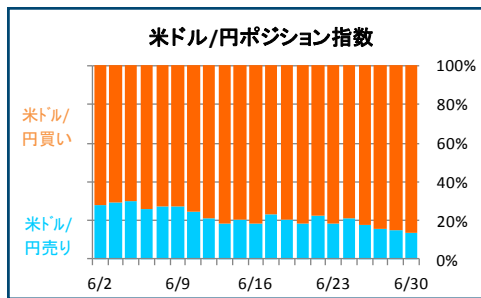
日経平均

OPEN	14777.51
HIGH	15442.67
LOW	14777.51
CLOSE	15162.10

NYダウ平均

OPEN	16716.85
HIGH	16978.02
LOW	16673.65
CLOSE	16826.60

6月のポジション動向



今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米6月雇用統計(3日)
- ・日5月経常・貿易収支(8日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・米6月小売売上高(15日)
- ・米第2四半期GDP・速報値(30日)
- ・米FOMC声明発表(30日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言
- ・米長期金利
- ・イラク・ウクライナ情勢
- ・日本の追加緩和に関する要人発言

今月の見通し

日米双方の株価が堅調さを残し、かつ経済指標の「良過ぎず、悪過ぎず」という状態を継続する中、米国および日本の双方が金融政策の先行きについて何らかの示唆を行う事を控えている。これによって、ドル/円の膠着感はかなり強い。6月は軟調な推移に見えたが、これも5月の下旬から6月上旬にかけての上げ幅を消したに過ぎず、4月中旬以降は101円円台前半から102円台半ばを中心とするレンジ内での推移が続いていると言える。7月についても、日米どちらかにでも金融政策の先行きについて踏み込んだ示唆、もしくは市場の政策変更期待を煽るような現象が発生しない限り、ドル/円がこの膠着感を払拭するのは簡単ではないだろう。そうした「変化」を求めて、各種イベントや要人発言を追いかけていく相場になりそうだ。

なお、テクニカル面で言うと、6月のうちに中長期的なサポート・レジスタンスになりがちな200日移動平均線をハッキリと下回ってしまった事から、しばらくは同線が上値抵抗として働く可能性がある。また、下げた場合、年初来安値100.754円の更新もあり得る。(石川)

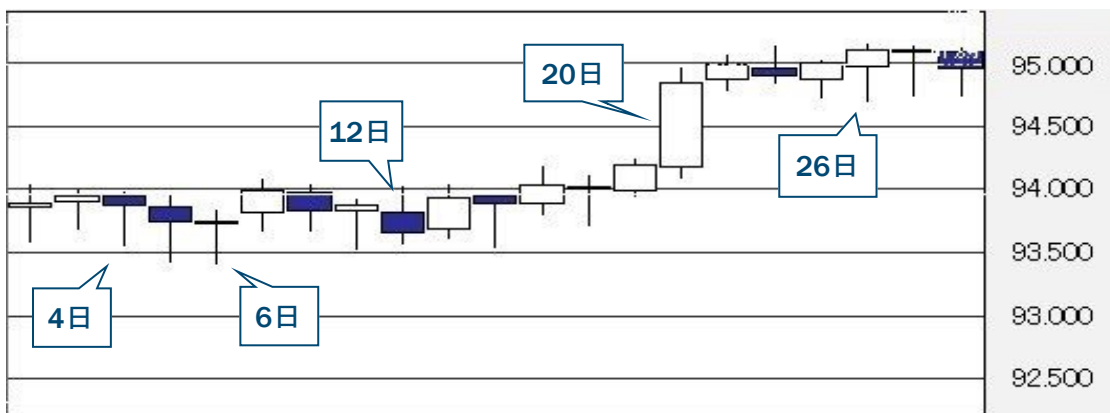
(予想レンジ: 100.500~103.000円)

カナダ/円 6月の推移

CAD/JPY

6月のカナダ/円相場は93.419～95.150円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.3%の上昇（カナダドル高・円安）となった。

上旬から中旬にかけては、94.00円が強力な抵抗となり、瞬間的に上抜けてもクローズで93円台に押し戻される展開が5回続いた。6回目の挑戦でようやく94円台に乗せてクローズしたのが17日であり、その後23日には5カ月ぶりの高値となる95円台へと上伸した。ウクライナやイラク情勢の混迷を受けて原油価格が上昇する一方、主要国の株価は堅調に推移した事がカナダドルのサポートになった。また、カナダのインフレが予想以上に加速した事で、住宅価格の高騰を気にするカナダ中銀（BOC）がハト派姿勢を維持出来なくなるとの見方が広がった事も大きかった。



四本値

OPEN	93.871
HIGH	95.150
LOW	93.419
CLOSE	94.966

4日	カナダ中銀（BOC）は政策金利を1.00%に据え置いた。同時に発表した声明で「カナダドル安とエネルギーコストの上昇がインフレを上昇させている」としながらも「低インフレリスクはこれまで以上に大きくなっている」としてハト派姿勢を崩さなかった事からカナダドル売りが強まると、一時93.50円台まで下落した。
6日	加5月雇用統計で、雇用者数ネット変化は前月比2.58万人増と予想（2.50万人増）をわずかに上回ったが、失業率が7.0%と予想及び前月値（いずれも6.9%）より弱めの結果となった。これを受けて93.419円の安値を付けたが、同時に発表された米5月雇用統計の結果を好感してNYダウ平均が上昇すると93円台後半まで値を戻した。
12日	イラク情勢の緊迫化を背景に原油先物価格が106ドル台に上昇する中で、94.00円台を回復する場面も見られたが、オバマ大統領が「イラクでの軍事攻撃の可能性は排除しない」との見解を示した事を受けてNYダウ平均が下落幅を拡大すると93.50円台まで軟化した。なお、ポロズBOC総裁は、半期に一度の金融システム報告を行い「高止まりする住宅価格と過去最高水準の家計債務が、引き続きカナダの金融システムにとって最大のリスクとなっている」と指摘した。
20日	加4月小売売上高が前月比+1.1%と予想（+0.6%）を大幅に上回った上に、加5月消費者物価指数も前年比+2.3%と予想（+2.0%）を上回った。これらを受けて、BOCがハト派姿勢を維持するのが難しくなるとの見方が強まりカナダドル買いが活発化。一時94.90円台まで上昇した。なお、NYダウ平均が16978.02ドルまで上昇して史上最高値を更新した事もカナダ/円の上昇を支援した。
26日	前日に、米第1四半期国内総生産（GDP）・確報値が前期比年率-2.9%と、改定値の-1.0%から大幅に下方修正されたのに続き、この日は米5月個人支出が予想を下回った事から米国の早期利上げ期待が後退。米ドル/カナダドルが約5カ月ぶりの米ドル安・カナダドル高水準まで下落した影響からカナダ/円は95.150円まで上昇した。

CAD/JPY

加10年債利回り

OPEN	2.2526%
HIGH	2.3580%
LOW	2.2120%
CLOSE	2.2303%

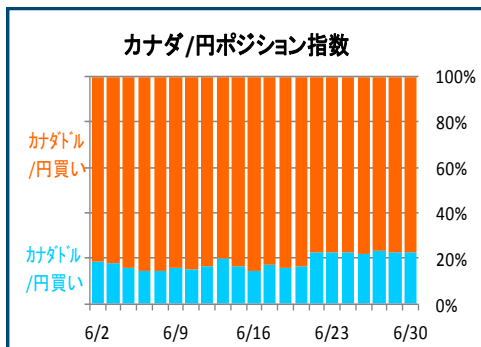
N Y 原油

OPEN	102.92
HIGH	107.73
LOW	101.60
CLOSE	105.37

NYダウ平均

OPEN	16716.85
HIGH	16978.02
LOW	16673.65
CLOSE	16826.60

6月のポジション動向



今月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米6月雇用統計(3日)
- ・加6月住宅着工件数(9日)
- ・加6月雇用統計(11日)
- ・日銀金融政策決定会合(14-15日)
- ・加中銀政策金利発表(16日)
- ・加6月消費者物価指数(18日)
- ・ウクライナ・イラク情勢
- ・国際商品価格
- ・主要国株価

今月の見通し

6月は、ユーロ圏(ECB)の金融緩和強化に続き、米国の利上げ先送り期待が広がったことから、ユーロやドルに下落圧力がかかる中で、相対的にカナダドルが上昇する事になった。カナダのインフレ高進も上昇の一因となったが、これに関してはカナダ中銀が依然として低インフレ警戒姿勢を崩しておらず、今のところは市場の思惑が先行している感もある。こうした中、今月16日に発表されるBOC声明のインフレに関する文言とともに、18日に発表される加6月消費者物価指数の結果も要注目だろう。BOCのハト派姿勢が実際に和らぐとともに、インフレがさらに高進するようなら、カナダドルにもう一段の上昇圧力がかかりそうだ。

ただし、米ドルの動きには注意が必要だろう。6月については米早期利上げ観測が後退して米ドルが下落したが、こちらも市場の思惑が先行している格好だ。米6月雇用統計などが好結果となれば、再び早期利上げ観測が浮上する可能性は十分にある。その場合には、6月とは反対に米ドル高・カナダドル安の影響から、カナダ/円も弱含む可能性があるだろう。さらに、主要国の株価が米早期利上げ(観測)を嫌気して下落するようだとカナダ/円の下落が加速する事も考えられる。米ドル高は、原油など資源価格の下落にも繋がりやすいという点でもカナダドルにとってマイナス材料だ。もっとも米早期利上げ観測が再浮上した場合でも、株価が米国の景気回復を素直に好感して上昇するようなら、リスクオンの円安に支えられてカナダ/円は堅調に推移すると考えられる。米国の早期利上げ観測がカナダ/円相場に与える影響は、主要国の株価動向次第と言えそうだ。(神田)

(予想レンジ:93.500~97.000円)